

# 南極から附中へ

## 南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校  
校長通信 第31号 令和2年6月1日



### ○南極観測隊員の食事（昭和基地）

- ・第4回目は、やっと南極料理人で有名になった基地での食事です。観測隊員には必ず2名の調理隊員（コックさん）がいます。隊員の胃袋を満たすためにそれぞれ和食と洋食が得意のコックさんです。昭和基地への食糧は、観測船が1年に1回しか行かないため、約1年半分の食糧を一気に運びます。多く持って行くと廃棄しなければならなくなり、一方で足りないと大変なこと？が起こるので、食材選びは非常に難しいそうです。普段、食事はあまり気にしませんが、限られた空間では、食事は、大きな楽しみになります。調理隊員は重要な仕事です。ある意味、観測の成否を握っています。調理隊員になりたい希望者が多いのは、料理人ならではの食べた人を幸せにしたいという気持ちからだと思います。将来、食べ物屋さんになりたい人はチャレンジしてみてください。メニューは隊員全員の要望を聞くことはできませんが、隊員にも食べ物に好き嫌いがあるので、出発前に嗜好調査が行われます。
- ・白瀬臺の時代は、ビタミン不足で壊血病になることがありましたが、最近では、冷凍技術が上がって、多くの食材を冷凍保存できるようになり、克服できるようになりました。
- ・さらに、現在の昭和基地では、水耕栽培ができるようになり、葉物野菜は収穫できるようになりました。いろいろなものを栽培しているようですが、イチゴは数粒しか収穫できず、越冬隊員は30名以上いますが、平等に分け合ったそうです。



<料理の盛り付けをする調理隊員>



<隊員からの要望で持って行ったフランス産〇〇〇>



<やっぱり大好きソフトクリーム>